

IATSS三十周年によせて

## IATSSの思い出など

三角哲生 (学)二階堂学園理事長

文部事務次官、日本育英会理事長、国立西洋美術館長を経て、現在、NHK学園高等学校長、(学)二階堂学園理事長、(財)新国立劇場運営財団理事長。1984年5月～98年8月(財)国際交通安全学会理事。



20年前のことになる。本田技研工業⑭の杉浦英男会長が、国際交通安全学会事務局の尾崎憲一氏を伴って、文部省に来られた。杉浦会長とは、旧制東京高等学校の同窓同学年である。彼は理科で私は文科だから、接触の機会が少ないのが普通だが、学校の寮で部屋が近かったので、旧知の仲である。しかし、卒業の後は、会うことがなかった。

来訪の用件は、学会が作成した二輪車の正しい運転のための指導書の活用、普及のことであった。スキーマの教本のように連続写真を用いて、実に周到にまとめられた著作であった。

当時、ほとんどの都道府県の教育委員会と公立高等学校が、生徒に対しいわゆる「三ない運動」(買わない、乗らない、免許を取らない)を行っており、これが全国の大勢として支配的であった。私は、この運動の考え方は、教育の本来の在り方から見ると、事柄に正面から取り組むのでない、逃げの姿勢になるものであり、バイクの運転が生活上、職業上必要な生徒に対しては、必要な教育訓練を施したうえで、これを認めるべきだと考えていた。そこで、所掌する体育局、初等中等教育局の幹部とともに、この学会プロジェクトのまとめ役、責任者であられた長江啓泰日本大学教授からご教示を頂戴し、勉強をした。そして、文部省も、警察庁とならんで、この指導書の監修という名義を冠させていただくことになったのである。

その後、杉浦会長から、学会活動に関与しないかとのお誘いがあり、おかげさまで数々の貴重な事業の実施を拝見させていただいた。当時、学会の会長は、私が文部省で学術関係業務に携った時から警咳に接し、御指導を賜った茅誠司先生であった。わが国全体が活気に満ちた時であり、学会の活動も、豊かな資金をもって活発に運ばれていた。実に有意義な行事、勉強会等に度々参加させていただき、会の後の懇親パーティも大変愉快なひとときであった。鈴鹿のIATSSフォーラムや御殿場の経団連セミナーハウスでの泊り込み、東京湾岸地区の船上見学、勝田台の中央研修所訪問等思い出すことは多い。また、佐貫亦男、平尾収、辻村明などの先生方の質問やコメントが、勉強会を実り多いものにしていただろうと思う。東南アジア諸国から参加の研修コースも充実した内容のもので、年に3回も繰り返して行われていたのである。また、当時F1グランプリは、ホンダのセナ、プロスト時代であり、学会創立者でもある本田宗一郎さんは、最高に御機嫌うるわしい日々を過ごしておられたと思う(その様子は、鈴鹿のスタンドでも拝見したことがある)。

先日、11月15日に上野の国立科学博物館で、日本自動車殿堂の第4回表彰式があり、本田宗一郎、藤澤武夫、西田通弘氏等の先輩とともに、今回、久米是志前社長がお入りになり、御同慶の至りである。この殿堂を設立なさった小口泰平芝浦工業大学前学長(学会副会長)には感謝の外ないと思っているのである。

終わりに、学会の歴代の会長、専務理事、常務理事、事務局長等の幹部の方々や、細かいことまでいろいろとお世話いただいた事務局の皆様を懐かしく思い出しつつ、感謝申し上げながら筆をおく。